

2019年度ハワイ短期留学プログラム参加報告書

A 類 理科選修 3 年

私は、教育実習を通して教科としての英語の授業を参観したり、海外の日本人学校や教育について考える機会があったことから、将来は海外での教育に携わりたいと思い始めていた。そして、以前から留学したいという気持ちがあり、教師を目指す上で現場を見る経験はとても大切であると考えていた。ISSUP のハワイ短期留学プログラムは、多文化社会であるハワイの教育や児童の様子、日本の小学校でも取り扱う火山とそれを取り巻く環境、歴史を実際に見て学べるプログラムであったため、参加を決めた。

プログラムに参加するにあたり、できるだけ英語を使うことに挑戦し自分の学んできた英語がどこまで通用するのか確認すること、火山やハワイの自然、歴史などを肌で体感すること、海外の教育や児童の様子について知ることを目的とした。本報告書では、英語と教育という大きく二つの視点から、プログラムを通して学んだ成果を報告する。

まず英語では、言い換える力と要約する力、表情の豊かさが話すために必要であることがわかった。プログラム中は英語で話す機会がたくさんあり、はじめは何もできずに無力感が募った。しかし、次第に積極的に話そうと思え、場数を踏むごとに言いたいことを分かりやすく話すことと間合いの取り方が分かった。これからの英語教育は読む・書くのはもちろんであるが、聞く・話すといった英会話にも力を入れるべきであると強く感じた。それは英語が飛び交う環境で過ごす中で、自分の話したいことをとっさに言うことができずも



どかしい経験を多くしたからである。この経験を通して、自分の英会話力を高めるための勉強の仕方について具体的に意識できるようになった。ハワイで英語を使って現地の人と交流したことは、自分の言いたいことをどのように変換すれば自分が話せる英文になるのか、分かりやすく伝わるのか、英語の表現や自分の英語力と向き合うとてもよい機会になった。英語で話す時にこのような工夫が必要であることは、英語が飛び交う環境に身を置いて初めて気がついたことである。教師になったら、英語を学んだり、話したりする時の工夫として児童たちにこれらの学んだことを還元していきたい。

次に教師には児童の違いに応じて能力を引き出す力と教えるための知識(歴史を知っておくこと)と経験を持つことが重要であると学んだ。プログラム中に、全米ベストティーチャーに選ばれたこともあるエイミー先生の話のうかがう機会があった。エイミー先生によると、リーディングの苦手な子であれば、興味を持ったものを題材にすればよりスムーズにリーディングの学習につなげていくことができる。できる問題から与え、できることから始めることが大切であるという。また、この小学校では、自分の興味に基づいた活動をする時間が設けられている。児童が望むものを考えるというのは教師にとって当たり前のように見えるが、この学校には児童の興味や関心に真摯に向き合おうとする姿勢があると感じた。講話を通して私は、子どもたちはそれぞれ様々な得意なことや不得意なことを持っていることを再確認した。全く同じではないところを含め、教師が児童をしっかりと見て、児童の能力を最大限に引き出すためにはどうし

たらよいかを見極め、考えて、応じていく力が必要だと学んだ。また、ミュージアムでハワイの移民の暮らしや真珠湾攻撃について学んだ際、日本とは違う立場での考えがあることを知った。教科書や本を読むだけでなく、実物の展示を見たり、話を聞いたりすることが、学習者の理解に影響を与えることを実感した。何をどのような視点から教えるのかは様々であり、教師になった時に自分はどうするのか考えさせられた。

プログラムについてはハワイ島ではハワイ大学ヒロ校の見学、キラウエア火山、太平洋津波ミュージアムが印象的で、オアフ島では日経3世宅での交流、Wong先生宅でのBBQ、ビショップ博物館、エイミー先生の講話、Waiahole Poi Factory、そしてバス内でのリンさんとの会話が特に印象に残っている。公立の小学校見学とアクティビティ、ハワイ大学マノア校日本語クラブの学生との交流の機会がなくなってしまったのは非常に残念であった。しかし、プログラム中に学んだ自然や歴史、出会った人との交流を通して、ハワイがどのような場所であるのか学べたことは大変大きな収穫となった。海外は小さい頃からしばしば家族旅行等で行っていたが、今回は初めて自分で航空券を手配し、現地の集合場所まで行き、帰りも現地解散から帰国まで自分一人で移動した。一人で移動した経験は大きな自信となった。これを一つのステップとして、海外への関心を深め、このような活動に参加していきたいと思った。



また、今回のプログラムを通して仲間の存在は大きく、自分も魅力的な人になるために日々吸収しながら過ごしていきたいと感じた。本場で使う英語は「英会話」であり、「表現力」であることが分かった。そのことを学べたのは一緒に過ごした仲間の存在であり、これは長期留学では味わえない貴重な体験だと思った。話の種、話し方、伝え方を工夫するなど、日本にいてもできることはたくさんあるので、これからの日々をこのような意識をもって過ごしていこうと思った。

留学は学生生活の中で時間的に短期しかできないと自分の中で決めてしまっていたが、もう少し長く滞在して学びたいと感じた。今回の留学をステップとして、長期間の留学という選択肢も考えられるようになった。まずは海外の日本人学校の採用に向けて勉強し、機会があれば現地の小学校との関わりも持ちたい。さらに海外の教育を知った上で教師になりたいという気持ちが増して、教育に関する考え方が世界的な見方へと広がった。今回のプログラムをきっかけに、学内での英語の授業にも興味をもって情報収集をしていきたいと思う。以上のように進路についても選択肢を広げるとても有意義な学習になった。